

大阪 あーかいぶず

「あーかいぶず (Archives)」とは、英語で公文書、文書館という意味です。

目 次

大阪府公文書館開館 30 周年	1 頁
公文書館開館 30 周年記念座談会	2 頁
公文書館専門員として赴任して	3 頁
平成 26 年度開催イベントを振り返って	1 2 頁
第 29 回公文書館運営懇談会	1 3 頁
公文書館事業推移	1 4 頁

第47号 平成27年10月
大阪府公文書館発行

大阪府公文書館開館 30 周年

大阪府公文書館は、昭和60年(1985年)11月11日に、大阪市住吉区帝塚山で開館し、平成27年(2015年)11月11日には、開館30周年を迎えます。

帝塚山の地で開館されたのは、昭和59年(1985年)に策定された「大阪府公文書館(仮称)設立第一次基本計画」において、当面の構想として、帝塚山にあった旧大阪女子大学図書館の既存施設を有効活用し、暫定的に開設することとされたからです。



帝塚山時代の公文書館 外観

基本計画にある長期構想の考え方としては、「情報の収集、蓄積及び府民の利用の便等を考慮して、府庁の本庁舎又はその周辺が望ましく、今後、庁舎周辺整備等の具体化の中で検討を行うこととする」としていました。

庁舎が狭隘化、分散化していた当時の状況では、公文書館を開設するだけのスペースを本庁舎又はその周辺に、見出すのは困難なことだったと思われます。



帝塚山時代の公文書館 館内

大阪府が公文書館を開館した2年後の昭和62年に、国及び地方公共団体に、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を謳った公文書館法がようやく制定されていますが、公文書館の当時の整備状況において、大阪府公文書館は都道府県公文書館としては、全国で11番目、近畿府県としては京都府、兵庫県に次いでの開設となりました。

帝塚山時代の公文書館は、南海電鉄高野線の「帝塚山駅」から徒歩6分、阪堺電軌鉄道上町線「帝塚山三丁目

駅」から徒歩3分の地にあり、万代池公園のそばの閑静な住宅街が広がる文教地域にあって、3階建てのモダンな建物でした。しかし、書庫の容量が少なく、隣接する府有施設の一部を借りて書庫にしなければならない状態で、また建築年次も昭和26年のために、老朽化と耐震性の両面での課題を抱えていました。

その後、本府の財政状況や行財政改革の視点、庁舎周辺整備や府有財産の活用状況など、さまざまな要素を加味して、公文書館の移転について検討が行われて、平成23年（2011年）に、帝塚山から大手前庁舎本館1階に移転することになったのです。



現公文書館の展示スペース

移転にあたっては、「大阪府公文書総合センター」を設けて、現用の公文書の閲覧・公開請求、公表資料の提供の窓口である「府政情報センター」と、歴史的文書資料類等の閲覧申出・提供の窓口である「公文書館」を併設することにより、窓口機能を一元化して、現用文書、歴史的文書の情報をワンストップで提供し、府民の利便性の向上を図ることにしました。

公文書館は、帝塚山での開館以来、四半世紀を経て、長期構想の考え方どおり、府庁の本庁舎へ移設されたこととなります。現在府庁本館について、耐震改修工事を実施しており、平成28年度には、現在の本館西側1階から、東に大阪城を望むことができる、本館東側5階の正庁の間の横に移転することになっています。

開館30周年を迎えて、今後とも閲覧・展示スペース、書庫などの設備の充実にも努めるとともに、公文書の収集・保存や調査研究・レファレンス機能の充実を図り、より府民に親しまれ役立つ公文書館、歴史を未来につなぐ公文書館を目指していきたいと考えています。

公文書館開館30周年記念座談会

公文書館は平成27年11月11日に、開館30周年を迎え、これを記念して、開館に御尽力された方々をお招きした座談会を開催いたしました。

開館からこれまでの30年を振り返っていただくとともに、これからの公文書館のあり方についても語っていただきました。

開館にあたって、日夜ご奮闘された熱心な取組みのお話、改めて多くの方々の努力の結晶ともいえる大切な公文書館を、悠久の時の流れにのせて、後世に伝えていかなければならないとの思いを新たにしました。

この座談会の内容についてはオーラルヒストリー（口述筆記）として、次号の大阪あーかいぶず第48号（平成28年3月発行予定）に掲載させていただきます。

- 【日時】 平成27年8月26日（水） 14:00～16:30
- 【場所】 府庁本館1階 第3共用会議室
- 【出席者】 山中永之佑 前公文書館運営懇談会座長
(大阪大学名誉教授)
- 大西 愛 公文書館運営懇談会委員・
元公文書館専門員
(大阪大学出版会)
- 中西 優 元法制文書課管理係長
(株)大阪国際会議場専務取締役
(敬称略・カッコ内は現職)
- 濱本 慶一 府政情報室長
- 村上 裕治 情報公開課長
- 事務局 情報公開課公文書グループ
(西村、大倉、謝)

公文書館専門員として赴任して

1. はじめに

この4月に大阪府公文書館の専門員として赴任してから半年あまりがたちました。私はこれまで、大学および大学院で日本近現代史を専攻するとともに、さまざまな地域の古文書整理や自治体史の編纂作業に携わってきました。またそのなかで、歴史資料としての公文書に触れる機会を少なからず有してきました。他方、2011（平成23）年に「公文書等の管理に関する法律」（以下、「公文書管理法」という）が全面施行されて以降、国および地方の公文書館を取り巻く状況も変わりつつあります。そこで今回は、自身の経験を踏まえつつ、歴史研究と公文書との関わりや、公文書館の果たすべき役割などについて考えてみたいと思います。

2. 公文書とは何か

まず、公文書の定義ですが、公文書管理法第1条では、「公文書等」を「健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」として位置づけ、「主権者である国民が主体的に利用し得るもの」としています。その上で、同法第2条で「公文書等」について具体的に定め、それを①行政文書②法人文書③特定歴史公文書等の3つに分類しています（第8項）。そして、それぞれについて、①行政機関の職員が職務上作成し、又は取得した文書（図画及び電磁的記録を含む）であって、当該行政機関の職員が組織的に用いるものとして、当該行政機関が保有しているもの（第4項）、②独立行政法人等（国立大学法人等も含む）の役員又は職員が組織的に用いるものとして、当該独立行政法人等が保有しているもの（第5項）、③歴史公文書等（歴史資料として重要な公文書その他の文書）のうち国立公文書館等に移管されたもの（第7項）と規定しています。

なお、公文書管理法第34条において、地方公共団体はその保有する文書の適正な管理に関して必要な施策の策定、実施に努めなければならないとされていますが、大阪府では同法施行以前から、「大阪府行政文書管理規則」および「歴史的な文書資料類の収集及び保存に関する規程」で対応しています。

一方、公文書以外の文書を指す用語が「私文書」であり、歴史資料や文化財としての「古文書」はこちらに含まれます。ただし、明治以降の近代文書について言えば、公文書と私文書をはっきりと分けることが難しい場面もみられます。たとえば、明治時代に村長を務めていたA家から資料の寄贈・寄託を受けた場合、「A家文書」として扱うかぎりでは私文書ですが、その中には村役場の行政文書、すなわち公文書が含まれていることが少なくありません。このように、公文書と私文書は概念上では明確に区分されていますが、歴史資料として保存・利用される段階になると、その区分は曖昧にならざるをえないと言えます。

3. 歴史資料としての公文書

次に、公文書を歴史資料として用いる場合、そこから何が見えてくるかということですが、一言でいえば、その公文書を作成した組織の意思決定過程がわかる、ということになるかと思います。たとえば、添付された陳情書や請願書を読めば、なぜその政策が立案されたのかという背景を知ることができます。また、立案から決定までの過程で多くの加筆、訂正、削除等がなされる「原議」（一般に、一連の決裁文書をさす）は、その政策の意思決定過程を分析する上で最も重要な資料の一つであるといえます。とりわけ、「上からの近代化」といわれることの多い日本においては、近代化に果たした行政の役割が大きく、政策の立案・実施のプロセスを広範な社会情勢のなかで読み取ることができるという点に、日本の近現代の公文書の大きな特徴があると言ってよいでしょう。

ただし、公文書のみでは、政策過程の基礎的な部分を理解できるものの、立案担当者の意思、そこに加えられた修正や決定過程における決定権者の意思は完全には理解できません。なぜなら、すべての意思決定が公式の場で行われるとは限らず、なおかつ非公式の場における意思決定や合意形成は官公庁等の公文書には表れてこないからです。したがって、政策意思決定過程の全体像を正確に理解するためには、公文書の内容を補完するものとして、関係者の日記や書簡など私文書の存在が重要にな

ってきます。

要するに、公文書だけ、あるいは私文書だけでは歴史研究はできないわけであって、各自治体の公文書館においても、地域の貴重な歴史資料であるという観点から、私文書を積極的に保存・活用していくことが求められています。当館でも、江戸時代に河内国河内郡今米村（現東大阪市）の庄屋を務めた川中家の『川中家文書』をはじめ、民間からの寄贈・寄託資料を保存し閲覧に供するとともに、それらの文書を用いて古文書講座を毎年1回開催しており、住民の皆様が公文書館の活動を知っていただく機会としております。

4. 自治体史について

ここまでは、歴史研究における公文書あるいは私文書の活用ということについて述べてきましたが、その具体的な成果の一つとして「自治体史」が挙げられます。自治体史とは、府県や市町村などの地方自治体が予算を割いて、その自治体の領域の歴史を資料にもとづいて編纂した行政刊行物のことです。多くの場合、通史編（本文編）と資料編（史料編）に分かれており、主に大学教員や地元の郷土史家などが執筆を担当しています（大阪府内の自治体史については後掲の一覧表を参照）。

また、自治体史の編纂を契機に、公文書をはじめ、個人の所蔵する近世・近代文書、新聞や雑誌などの刊行資料、さらには他機関に所蔵されている資料など、その地域に関するありとあらゆる歴史資料が網羅的に収集されます。このような地域歴史資料の収集については、公文書館の他に、各自治体の歴史資料館や図書館、あるいは文化財課、生涯学習課などの部署がおこなっている場合があります。そして、これらの膨大な資料1点1点について、目録の作成、写真の撮影がおこなわれ、重要と思われるものについては翻刻（＝古文書など崩し字で書かれた文献を楷書になおして一般に読める形式にすること）され、通史編や資料編に掲載されます。このようにして編纂された自治体史は、住民の地域に対する理解を深めるとともに、生涯学習や学校教育、住民によるまちづくり等に活用することが目的とされています。

にもかかわらず、自治体史を実際に手にとって読んだことがあるという人は少数派であり、むしろ地元の人々にとって馴染みのないものになってしまうという

のが現状です。そのため、近年刊行された自治体史のなかには、後掲表中の『和泉市の歴史』のように、地域別やテーマ別の叙述をおこなうなど、住民の方々にも少しでも興味を持ってもらうための工夫を凝らしているものもあります。

また、最近では編纂の段階で住民の意見を聞く場を設けたり、公募で選ばれた住民が調査活動に携わるといった手法を実施している自治体もみられるなど、従来の「行政主導型」から「住民参加型」へと少しずつ変化してきているといえます。私が調査員として関わっている八尾市史でも、地域の方々にボランティアとして作業に参加していただくとともに、当時の地域の様子が具体的にわかる史料については、現地調査報告会というかたちで住民の皆さまに紹介し、地元の歴史に対する理解を深めてもらう機会を設けています。

5. むすびにかえて

このような状況のなかで、公文書等の歴史資料についても、行政と住民が一体となって守り伝えていくという姿勢が重要であり、公文書館はまさに両者をつなぐ場としての役割を積極的に果たしていくことが求められています。そのためには、公文書等を住民共有の知的資源として捉え、現在及び将来の住民への説明や活用（可能性）を考えて保存していこうという意識を、文書管理担当者のみならず自治体の全職員で共有していくことが大切です。また、貴重な歴史的資料の保存・活用を継続的・安定的におこなっていくためには、公文書館の活動に対する住民の皆様との理解と協力が必要になってきます。今後、当館においても職員や住民の方々に対して公文書館業務の周知徹底を図るとともに、地域に開かれた公文書館をめざして、より多くの人々が利用しやすいような環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

（公文書館専門員 福島彰人）



大阪府内市町村史誌一覧

(備考欄の×印は大阪府公文書館が所蔵していないことを示す)

地域	書名	発行所	発行年	備考
大阪府全域	大阪府史 第1巻 古代編1	大阪府	1978	
	大阪府史 第2巻 古代編2	大阪府	1990	
	大阪府史 第3巻 中世編1	大阪府	1980	
	大阪府史 第4巻 中世編2	大阪府	1981	
	大阪府史 第5巻 近世編1	大阪府	1985	
	大阪府史 第6巻 近世編2	大阪府	1987	
	大阪府史 第7巻 近世編3	大阪府	1989	
	大阪府史 別巻 第1巻(古代編1)補遺・年表・索引	大阪府	1991	
	大阪百年史	大阪府	1968	
	大阪府誌 第1編 商業,金融	思文閣	1970	
	大阪府誌 第2編 工業,度量衡,特許,富力並生産力	思文閣	1970	
	大阪府誌 第3編 風土,農業,林業,畜産業,鉱業,漁業	思文閣	1970	
	大阪府誌 第4編 財政,教育,衛生,慈善事業,警察,土木並交通機関	思文閣	1970	
	大阪府誌 第5編 名勝旧蹟	思文閣	1970	
	大阪府全志 巻之1	清文堂	1985	
	大阪府全志 巻之2	清文堂	1985	
	大阪府全志 巻之3	清文堂	1985	
	大阪府全志 巻之4	清文堂	1985	
	大阪府全志 巻之5	清文堂	1985	
	大阪府全志 索引	清文堂出版	1986	
大阪府全志 附図	清文堂出版	1976		
大阪市域	大阪市史 第1	清文堂出版	1978	
	大阪市史 第2	清文堂出版	1978	
	大阪市史 第3	清文堂出版	1979	
	大阪市史 第4 上	清文堂出版	1979	
	大阪市史 第4 下	清文堂出版	1979	
	大阪市史 第5	清文堂出版	1979	
	大阪市史 索引	清文堂出版	1979	
	大阪市史 附図	清文堂出版	1979	
	明治大正大阪市史 第1巻 概説篇	日本評論社	1934	
	明治大正大阪市史 第2巻 経済篇 上	日本評論社	1935	
	明治大正大阪市史 第3巻 経済篇 中	日本評論社	1934	
	明治大正大阪市史 第4巻 経済篇 下	日本評論社	1934	
	明治大正大阪市史 第5巻 論文篇	日本評論社	1933	
	明治大正大阪市史 第6巻 法令篇	日本評論社	1934	
	明治大正大阪市史 第7巻 史料篇	日本評論社	1933	
	明治大正大阪市史 第8巻 総目次・年表・索引	日本評論社	1935	
	昭和大阪市史 第1巻 概説篇	大阪市役所	1951	
	昭和大阪市史 第2巻 行政篇	大阪市役所	1952	
	昭和大阪市史 第3巻 経済篇 上	大阪市役所	1954	
	昭和大阪市史 第4巻 経済篇 中	大阪市役所	1953	
	昭和大阪市史 第5巻 経済篇 下	大阪市役所	1952	
	昭和大阪市史 第6巻 社会篇	大阪市役所	1953	
	昭和大阪市史 第7巻 文化篇	大阪市役所	1953	
	昭和大阪市史 第8巻 附篇	大阪市役所	1954	
	昭和大阪市史 続編 第1巻 概説編	大阪市役所	1964	
	昭和大阪市史 続編 第2巻 行政編	大阪市役所	1965	
	昭和大阪市史 続編 第3巻 経済編 上	大阪市役所	1967	
	昭和大阪市史 続編 第4巻 経済編 中	大阪市役所	1965	
	昭和大阪市史 続編 第5巻 経済編 下	大阪市役所	1969	
	昭和大阪市史 続編 第6巻 社会編	大阪市役所	1966	
	昭和大阪市史 続編 第7巻 文化編	大阪市役所	1968	
	昭和大阪市史 続編 第8巻 付編	大阪市役所	1969	

地域	書名	発行所	発行年	備考
大阪市域	新修大阪市史 第1巻	大阪市	1988	
	新修大阪市史 第2巻	大阪市	1988	
	新修大阪市史 第3巻	大阪市	1989	
	新修大阪市史 第4巻	大阪市	1990	
	新修大阪市史 第5巻	大阪市	1991	
	新修大阪市史 第6巻	大阪市	1994	
	新修大阪市史 第7巻	大阪市	1994	
	新修大阪市史 第8巻	大阪市	1992	
	新修大阪市史 第9巻	大阪市	1995	
	新修大阪市史 第10巻	大阪市	1996	
	新修大阪市史 史料編第1巻 考古資料編	大阪市	2004	
	新修大阪市史 史料編第2巻 古代・中世1	大阪市	2005	
	新修大阪市史 史料編第3巻 中世2	大阪市	2009	×
	新修大阪市史 史料編第5巻 大阪城編	大阪市	2006	
	新修大阪市史 史料編第6巻 近世1	大阪市	2007	
	新修大阪市史 史料編第14巻 近代1	大阪市	2005	
	新修大阪市史 史料編第15巻 近代2	大阪市	2013	
	新修大阪市史 史料編第16巻 近代3	大阪市	2008	
豊能地域	能勢町史 第1巻 自然・原始・古代・中世・近世	能勢町	2001	×
	能勢町史 第2巻 近現代	能勢町	1995	
	能勢町史 第3巻 資料編	能勢町	1975	
	能勢町史 第4巻 資料編	能勢町	1981	
	能勢町史 第5巻 資料編	能勢町	1985	
	豊能町史 本文編	豊能町	1987	
	豊能町史 史料編	豊能町	1984	
	箕面市史 本編 第1巻	箕面市役所	1964	
	箕面市史 本編 第2巻	箕面市役所	1966	
	箕面市史 本編 第3巻	箕面市役所	1977	
	箕面市史 史料編1 勝尾寺文書	箕面市役所	1968	
	箕面市史 史料編2 勝尾寺文書	箕面市役所	1972	
	箕面市史 史料編3 勝尾寺文書 滝安寺文書 共有文書	箕面市役所	1969	
	箕面市史 史料編4 共有文書 諸家文書	箕面市役所	1970	
	箕面市史 史料編5 共有文書 諸家文書	箕面市役所	1972	
	箕面市史 史料編6 諸家文書	箕面市役所	1975	
	箕面市史 図譜	箕面市役所	1974	
	池田市史 概説篇	池田市役所	1955	
	池田市史 史料編1 原始・古代・中世	池田市役所	1967	
	池田市史 史料編2 伊居太神社日記 上巻	池田市役所	1968	
	池田市史 史料編3 伊居太神社日記 下巻	池田市役所	1968	
	池田市史 史料編4 稲束家日記(宝暦8年～文政12年)	池田市役所	1980	×
	池田市史 史料編5 稲束家日記(文政13年～慶応3年)	池田市役所	1973	
	池田市史 史料編6 稲束家日記(明治元年～明治四十五年)	池田市役所	1986	
	池田市史 史料編7 立教舎心学関係資料	池田市役所	1987	
	池田市史 史料編8 畑村関係資料(安永4年～明治5年)	池田市役所	1990	
	池田市史 史料編9 大庄屋日記(住吉神社蔵)	池田市役所	1992	
	池田市史 史料編10 近代史資料	池田市役所	2014	
	池田市史 新版 概説篇	池田市役所	1971	×
	新修池田市史 第1巻	池田市	1997	
	新修池田市史 第2巻 近世編	池田市	1999	
	新修池田市史 第3巻 近代編	池田市	2009	
	新修池田市史 第4巻 現代編	池田市	2011	
	新修池田市史 第5巻 民俗編	池田市	1998	
	豊中市史 本編 第1巻	豊中市役所	1961	
	豊中市史 本編 第2巻	豊中市役所	1959	
	豊中市史 本編 第3巻	豊中市役所	1963	
	豊中市史 本編 第4巻	豊中市役所	1963	

地域	書名	発行所	発行年	備考
豊能地域	豊中市史 史料編1	豊中市役所	1960	
	豊中市史 史料編2	豊中市役所	1961	
	豊中市史 史料編3	豊中市役所	1962	
	豊中市史 史料編4	豊中郷土文化研究会	1963	
	新修豊中市史 第1巻 通史1	豊中市	2009	
	新修豊中市史 第2巻 通史2	豊中市	2010	
	新修豊中市史 第3巻 自然	豊中市	1999	
	新修豊中市史 第4巻 考古	豊中市	2005	
	新修豊中市史 第5巻 古文書・古記録	豊中市	2001	
	新修豊中市史 第6巻 美術	豊中市	2005	
	新修豊中市史 第7巻 民俗	豊中市	2003	
	新修豊中市史 第8巻 社会経済	豊中市	2005	
	新修豊中市史 第9巻 集落・都市	豊中市	1998	
	新修豊中市史 第10巻 学校教育	豊中市	2002	
新修豊中市史 第11巻 社会教育	豊中市	2004		
三島地域	島本町史 史料篇	島本町役場	1976	
	島本町史 本文篇	島本町役場	1975	×
	高槻市史 第1巻 本編1	高槻市役所	1977	
	高槻市史 第2巻 本編2	高槻市役所	1984	
	高槻市史 第3巻 史料編1	高槻市役所	1973	
	高槻市史 第4巻1 史料編2	高槻市役所	1974	
	高槻市史 第4巻2 史料編3	高槻市役所	1979	
	高槻市史 第5巻 史料編4	高槻市役所	1980	
	高槻市史 第6巻 考古編	高槻市役所	1973	
	新修茨木市史 第1巻 通史1	茨木市	2012	
	新修茨木市史 第4巻 史料編 古代中世	茨木市	2003	
	新修茨木市史 第5巻 史料編 近世	茨木市	2009	
	新修茨木市史 第6巻 史料編 近現代	茨木市	2011	
	新修茨木市史 第7巻 史料編 考古	茨木市	2014	
	新修茨木市史 第8巻 史料編 地理	茨木市	2004	
	新修茨木市史 第9巻 史料編 美術工芸	茨木市	2008	
	新修茨木市史 第10巻 別編 民俗	茨木市	2005	
	吹田市史 第1巻	吹田市役所	1990	
	吹田市史 第2巻	吹田市役所	1975	
	吹田市史 第3巻	吹田市役所	1989	
	吹田市史 第4巻 史料編 1	吹田市役所	1976	
	吹田市史 第5巻 史料編 2	吹田市役所	1978	
	吹田市史 第6巻 史料編 3	吹田市役所	1974	
	吹田市史 第7巻 史料編 4	吹田市役所	1976	
	吹田市史 第8巻 別編	吹田市役所	1981	
	摂津市史	摂津市役所	1977	
	摂津市史 史料編1	摂津市役所	1984	
	摂津市史 史料編2 近世編2	摂津市役所	1982	
	摂津市史 史料編3 近世編3	摂津市役所	1983	
	摂津市史 史料編4 近現代編	摂津市役所	1984	
摂津市史 別巻	摂津市教育委員会	1997		
北河内地域	守口市史 本文編 第1巻	守口市役所	1963	
	守口市史 本文編 第2巻	守口市役所	1965	
	守口市史 本文編 第3巻	守口市役所	1966	
	守口市史 本文編 第4巻	守口市役所	2000	
	守口市史 本文編 第5巻	守口市役所	2000	
	守口市史 史料編	守口市役所	1962	
	守口市史 史料編 第2	守口市役所	1966	
	門真市史 第1巻	門真市	1988	
	門真市史 第2巻	門真市	1992	
	門真市史 第3巻 近世資料編	門真市	1997	

地域	書名	発行所	発行年	備考
北河内地域	門真市史 第4巻 近世本文編	門真市	2000	
	門真市史 第5巻 近現代史料編	門真市	2001	
	門真市史 第6巻 近現代本文編	門真市	2006	
	門真市史 別巻 寺社美術篇	門真市	2003	
	寝屋川市誌	寝屋川市役所	1966	
	寝屋川市史 第1巻 考古資料編1	寝屋川市	1998	
	寝屋川市史 第2巻 考古資料編2	寝屋川市	1993	
	寝屋川市史 第2巻 考古資料編2 改訂版	寝屋川市	2006	
	寝屋川市史 第3巻 古代・中世史料編	寝屋川市	2005	×
	寝屋川市史 第4巻 近世史料編1	寝屋川市	2000	
	寝屋川市史 第5巻 近世史料編2	寝屋川市	2001	
	寝屋川市史 第6巻 近現代史料編	寝屋川市	2006	
	寝屋川市史 第7巻 美術・建築編	寝屋川市	2006	×
	寝屋川市史 第8巻 民俗資料編	寝屋川市	1991	
	寝屋川市史 第9巻 鉢かつき編	寝屋川市	2007	
	寝屋川市史 第10巻 本文編	寝屋川市	2008	×
	枚方市史 第1巻	枚方市役所	1967	
	枚方市史 第2巻	枚方市	1972	
	枚方市史 第3巻	枚方市	1977	
	枚方市史 第4巻	枚方市	1980	
	枚方市史 第5巻	枚方市	1984	
	枚方市史 第6巻 史料1	枚方市役所	1968	
	枚方市史 第7巻 史料2	枚方市	1970	
	枚方市史 第8巻 史料3	枚方市役所	1971	
	枚方市史 第9巻 史料4	枚方市	1974	
	枚方市史 第10巻 史料5	枚方市	1976	
	枚方市史 第11巻 史料6	枚方市	1977	
	枚方市史 第12巻	枚方市	1986	
	枚方市史 別巻	枚方市	1995	
	交野市史 交野町略史復刻編	交野市	1981	
	交野市史 考古編	交野市	1992	
	交野市史 自然編1	交野市	1986	
	交野市史 自然編2	交野市	1986	
	交野市史 民俗編	交野市	1981	
	四條畷市史 第1巻	四條畷市役所	1972	
	四條畷市史 改訂 第1巻	四條畷市役所	1984	×
	四條畷市史 第2巻 史料1	四條畷市役所	1979	
	四條畷市史 第3巻 史料2	四條畷市役所	1983	
	四條畷市史 第4巻 史跡総覧	四條畷市役所	1990	×
	大東市史	大東市教育委員会	1973	
	大東市史 近現代編	大東市教育委員会	1980	
大東市史 史料編1	大東市教育委員会	1984		
大東市史 史料編2	大東市教育委員会	1989		
中河内地域	東大阪市史 近代1	東大阪市	1973	
	東大阪市史 近代1 史料編	東大阪市	1982	
	東大阪市史 近代2	東大阪市	1997	
	東大阪市史 近代2 史料編	東大阪市	1988	
	八尾市史	八尾市役所	1958	
	八尾市史 史料編	八尾市役所	1960	×
	八尾市史 近代 史料編1	八尾市役所	1975	
	八尾市史 近代 史料編2	八尾市役所	1974	
	八尾市史 近代 史料編3	八尾市役所	1978	
	八尾市史 近代 本文編	八尾市役所	1983	
八尾市史 前近代 本文編	八尾市役所	1988		
八尾市史 文化財編	八尾市役所	1977	×	

地域	書名	発行所	発行年	備考
中河内地域	柏原市史 第1巻 文化財編	柏原市役所	1969	
	柏原市史 第2巻 本編1	柏原市役所	1973	
	柏原市史 第3巻 本編2	柏原市役所	1972	
	柏原市史 第4巻 史料編1	柏原市役所	1982	
	柏原市史 第5巻 史料編2	柏原市役所	1981	
	松原市史 第1巻 本文編1	松原市役所	1985	
	松原市史 第2巻 本文編2	松原市役所	2008	×
	松原市史 第3巻 史料編1	松原市役所	1978	
	松原市史 第4巻 史料編2	松原市役所	1974	
松原市史 第5巻 史料編3	松原市役所	1976		
南河内地域	藤井寺市史 第1巻 通史編1	藤井寺市	1997	×
	藤井寺市史 第2巻 通史編2	藤井寺市	2002	×
	藤井寺市史 第2巻 通史編3	藤井寺市	1998	×
	藤井寺市史 第3巻 史料編1	藤井寺市	1986	×
	藤井寺市史 第4巻 [上] 史料編2上	藤井寺市	1984	
	藤井寺市史 第4巻 [下] 史料編2下	藤井寺市	1985	×
	藤井寺市史 第5巻 史料編3	藤井寺市	1982	
	藤井寺市史 第6巻 [上] 史料編4上	藤井寺市	1983	
	藤井寺市史 第6巻 [中] 史料編4中	藤井寺市	1988	
	藤井寺市史 第6巻 [下] 史料編4下	藤井寺市	1990	×
	藤井寺市史 第7巻 史料編5	藤井寺市	1984	
	藤井寺市史 第8巻 史料編6	藤井寺市	1989	×
	藤井寺市史 第9巻 史料編7	藤井寺市	1987	
	藤井寺市史 第10巻 [上] 史料編8上	藤井寺市	1991	×
	藤井寺市史 第10巻 [中] 史料編8中	藤井寺市	1992	
	藤井寺市史 第10巻 [下] 史料編8下	藤井寺市	1993	
	藤井寺市史 各説編	藤井寺市	2000	×
	藤井寺市史 補遺編	藤井寺市	2003	×
	羽曳野市史 第1巻 本文編1	羽曳野市	1997	
	羽曳野市史 第2巻 本文編2	羽曳野市	1998	
	羽曳野市史 第3巻 史料編1	羽曳野市	1994	
	羽曳野市史 第4巻 史料編2	羽曳野市	1981	
	羽曳野市史 第5巻 史料編3	羽曳野市	1983	
	羽曳野市史 第6巻 史料編4	羽曳野市	1985	
	羽曳野市史 史料編別巻	羽曳野市	1985	
	羽曳野市史 第7巻 史料編5	羽曳野市	1994	
	羽曳野市史 文化財編別冊 絵巻物集	羽曳野市	1991	
	大阪狭山市史要	大阪狭山市	1988	
	大阪狭山市史 第2巻 史料編 古代・中世	大阪狭山市役所	2002	
	大阪狭山市史 第3巻 史料編 近世	大阪狭山市役所	2010	
	大阪狭山市史 第4巻 史料編 近現代	大阪狭山市役所	2012	
	大阪狭山市史 第5巻 史料編 狭山池	大阪狭山市役所	2005	
	大阪狭山市史 第7巻 別巻石造物編	大阪狭山市役所	2006	
	大阪狭山市史 第9巻 民俗編	大阪狭山市役所	1997	
	大阪狭山市史 第12巻 地名編	大阪狭山市役所	2000	×
	太子町誌	太子町役場	1968	×
	河南町誌	河南町役場	1968	
	続 河南町誌	河南町	2004	
	千早赤阪村誌 本文編	千早赤阪村役場	1980	
	千早赤阪村誌 資料編	千早赤阪村役場	1976	
	富田林市誌	富田林市役所	1955	×
富田林市史 第1巻 本文編1	富田林市役所	1985		
富田林市史 第2巻 本文編2	富田林市	1998		
富田林市史 第3巻 本文編3	富田林市	2004		
富田林市史 第4巻 史料編1	富田林市役所	1972		
富田林市史 第5巻 史料編2	富田林市役所	1973		

地域	書名	発行所	発行年	備考
南河内地域	河内長野市史 第1巻上 本文編 考古	河内長野市役所	1994	
	河内長野市史 第1巻下 本文編 古代中世	河内長野市	1997	
	河内長野市史 第2巻 本文編 近世	河内長野市	1998	
	河内長野市史 第3巻 本文編 近現代	河内長野市	2004	×
	河内長野市史 第4巻 史料編1	河内長野市役所	1972	
	河内長野市史 第5巻 史料編2	河内長野市役所	1975	
	河内長野市史 第6巻 史料編3	河内長野市役所	1977	
	河内長野市史 第7巻 史料編4	河内長野市役所	1980	
	河内長野市史 第8巻 史料編5	河内長野市役所	1981	
	河内長野市史 第9巻 別編1	河内長野市役所	1983	
	河内長野市史 第10巻 別編2	河内長野市役所	1973	
河内長野市史 第11巻 別編3	河内長野市	2006		
泉北地域	堺市史 第1巻 本編 第1	堺市役所	1929	
	堺市史 第2巻 本編 第2	堺市役所	1930	
	堺市史 第3巻 本編 第3	堺市役所	1930	
	堺市史 第4巻 資料編 第1	堺市役所	1930	
	堺市史 第5巻 資料編 第2	堺市役所	1929	
	堺市史 第6巻 資料編 第3	堺市役所	1929	
	堺市史 第7巻 別編	堺市役所	1930	
	堺市史 第8巻 索引・年表 編纂沿革	堺市役所	1931	
	堺市史 続編 第1巻	堺市役所	1971	×
	堺市史 続編 第2巻	堺市役所	1971	
	堺市史 続編 第3巻	堺市役所	1972	
	堺市史 続編 第4巻	堺市役所	1973	
	堺市史 続編 第5巻	堺市役所	1974	
	堺市史 続編 第6巻	堺市役所	1976	
	堺市史 続編 付図	堺市役所	1976	
	堺市制百年史	堺市役所	1996	
	高石市史 第1巻	高石市	1989	
	高石市史 第2巻 史料編1	高石市	1986	
	高石市史 第3巻 史料編2	高石市	1984	
	高石市史 第4巻 史料編3	高石市	1987	
	泉大津市史 第1巻上 本文編1	泉大津市	2004	
	泉大津市史 第1巻下 本文編2	泉大津市	1998	
	泉大津市史 第2巻 史料編1	泉大津市	1983	
	泉大津市史 第3巻 史料編2	泉大津市	1986	
	泉大津市史 第4巻 史料編3	泉大津市	1988	
	泉大津市史 第5巻 別編・史料編補遺	泉大津市	1995	
	忠岡町史 第1巻 本文編	忠岡町	1990	
	忠岡町史 第2巻 史料編1	忠岡町	1984	
	忠岡町史 第3巻 史料編2	忠岡町	1985	
	和泉市史 第1巻	和泉市役所	1965	
	和泉市史 第2巻	和泉市役所	1968	
	和泉市の歴史 1 横山と榎尾山の歴史	和泉市	2005	
	和泉市の歴史 2 松尾谷の歴史と松尾寺	和泉市	2008	
和泉市の歴史 3 池田谷の歴史と開発	和泉市	2011		
和泉市の歴史 4 信太山地域の歴史と生活	和泉市	2015		
和泉市の歴史 6 和泉市の考古・古代・中世	和泉市	2013		
和泉市の歴史 別編 和泉市50年のあゆみ	和泉市	2006		
泉南地域	岸和田市史 第1巻 自然・考古編	岸和田市	1979	
	岸和田市史 第2巻 古代・中世編	岸和田市	1996	
	岸和田市史 第3巻 近世編	岸和田市	2000	
	岸和田市史 第4巻 近代編	岸和田市	2005	
	岸和田市史 第5巻 現代編	岸和田市	1977	
	岸和田市史 第6巻 史料編1	岸和田市	1976	
	岸和田市史 第7巻 史料編2	岸和田市	1979	
	岸和田市史 第8巻 史料編3	岸和田市	1980	

地域	書名	発行所	発行年	備考
泉南地域	貝塚市史 第1巻 通史	貝塚市役所	1955	×
	貝塚市史 第2巻 各説	貝塚市役所	1957	×
	貝塚市史 第3巻 史料	貝塚市役所	1958	×
	貝塚市の70年	貝塚市	2013	
	熊取町史 史料編1	熊取町	1990	
	熊取町史 史料編2	熊取町	1995	
	熊取町史 史料編 補遺	熊取町	2000	
	熊取町史 本文編	熊取町	2000	
	泉佐野市史	泉佐野市役所	1958	
	新修泉佐野市史 1 通史編 自然～中世	清文堂出版	2008	×
	新修泉佐野市史 2・3 通史編近世 通史編近代現代	清文堂出版	2009	×
	新修泉佐野市史 4 史料編 古代・中世1	泉佐野市	2004	
	新修泉佐野市史 5 史料編 中世2	泉佐野市	2001	
	新修泉佐野市史 6 史料編 近世1	清文堂出版	2005	×
	新修泉佐野市史 7・8 史料編 近世2・近代現代	清文堂出版	2007	×
	新修泉佐野市史 9・10 考古編・民俗編	清文堂出版	2006	×
	新修泉佐野市史 11・12 建築・美術編・かんがい水利編	清文堂出版	2006	×
	新修泉佐野市史 13-[1] 絵図地図編 解説	泉佐野市	1999	×
	新修泉佐野市史 13-[2] 絵図地図編 絵図集	泉佐野市	1999	×
	田尻町史 歴史編	田尻町	2006	
	田尻町史 民俗編	田尻町	2008	
	泉南市史 史料編	泉南市	1982	
	泉南市史 通史編	泉南市	1987	
	阪南町史 上巻	阪南町役場	1983	
	阪南町史 下巻	阪南町役場	1977	×
	岬町の歴史	岬町	1995	

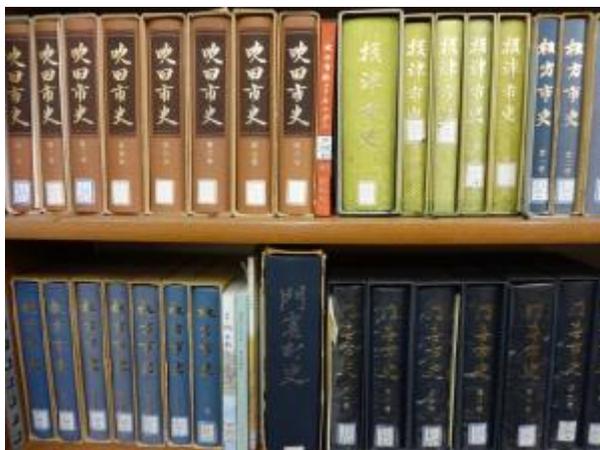
注1：府立中之島図書館作成“大阪府内市町村史誌目録”

〈<https://www.library.pref.osaka.jp/site/osaka/shishi.html>〉をもとにして、加筆修正して作成いたしました。(現在の市町村の建制順や郡域の構成市町村と異なります)

注2：上表には現在の市町村に関するもののみを抽出し、郡や区に関するもの、合併前や市制施行前の旧町村に関するもの等については省略しました。(ただし、阪南市については旧町に関するものしか刊行されていないため、そのまま掲載しました)

注3：備考欄の×印については、大阪府公文書館で所蔵しておりません。

無償にて寄贈して頂ける方がおられましたら、公文書館までご連絡をお願いします。



公文書館所蔵の府内市町村史誌

平成26年度開催イベントを振り返って

【展示】

- ・「関西国際空港開港から20年—関西国際空港の建設を振り返る—」

と き 平成26年5月30日(金)～
8月29日(金)

ところ 公文書総合センター

内 容 関空開港20年にあたり、建設の経緯や状況など、関空ができるまでの様子を、公文書館所蔵資料を中心に展示を行いました。



「展示品の日本航空機模型」

- ・「公文書館所蔵資料展 大阪府の成立とその発展—明治時代を中心にして—江戸時代の庄屋家の古文書など」

と き 平成26年10月1日(水)～
平成27年1月30日(金)

ところ 公文書総合センター

内 容 平成26年度の歴史講座のテーマである「大阪府の成立とその発展—明治時代を中心にして—」に関連した所蔵資料の企画展示と、当館が所蔵する江戸時代の庄屋家の古文書の展示を行いました。



「第五回内国博覧会図会」(KA-0001-188)

【イベント】

- ・「歴史講座 大阪府の成立とその発展—明治時代を中心にして—」

と き 平成26年10月1日(水)

ところ 大阪府公館

内 容 公文書館専門員が、「大阪府の成立とその発展—明治時代を中心にして—」をテーマに講座を開催しました。



「江之子島庁舎」(H2-2002-5)

- ・「古文書講座 はじめの一步！」

と き 平成27年1月21日(水)

ところ 新別館南館8階大研修室

内 容 公文書館専門員が、所蔵する江戸時代の庄屋文書を題材に、くずし字や古文書の解読の基礎を学ぶ講座を開催しました。また、あわせて大正時代に建てられた大阪府庁本館を見学する庁舎見学会を開催しました。



「講座風景」

展示 HP <https://archives.pref.osaka.lg.jp/search/information.do?method=hitPage&H=67>

講座 HP <https://archives.pref.osaka.lg.jp/search/information.do?method=hitPage&H=68>

第29回公文書館運営懇談会

平成26年12月25日(木)午後2時から4時まで、大阪府公館におきまして、第29回大阪府公文書館運営懇談会を開催しました。

【出席委員】 5名

- 大西 愛 (大阪大学出版会編集員)
 川崎 和代 (大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科教授)
 佐賀 朝 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)
 中尾 敏充 (奈良大学教養部教授)
 三吉 修 (和歌山大学経済学部教授)
 傍聴者1名

【議事】

1. 公文書館の運営状況について
2. デジタルアーカイブ化について
3. 公文書館利用要領の改正について
4. 「公文書館利用要領」別表の運用状況について
5. レファレンスの概要について
6. 『形像及碑表台帳』における審査の考え方について

【議事の概要】

- 1 「公文書館の運営状況について」では、昨年度の公文書館の運営状況について説明を行いました。
- 2 「デジタルアーカイブ化について」では、所蔵資料のデジタル化と公開を説明し、ホームページでの公開を工夫するようにと意見がありました。
- 3 「公文書館利用要領の改正について」では、文言整理等の一部改正について説明を行いました。
- 4 「公文書館利用要領 別表の運用状況について」では、閲覧、複写時の個人情報公開の目安である「公文書館利用要領 別表」の昨年度の運用について説明を行いました。
- 5 「レファレンスの概要について」では、昨年度の主なレファレンスを説明し、今後もレファレンスデータの蓄積の継続と、他館とのデータ共有につ

いて意見がありました。

6 「形像及碑表台帳における審査の考え方について」では、石碑等に表示されている個人であっても、閲覧、複写ではマスキング対応するよう意見がありました。



「第29回 公文書館運営懇談会 開催風景」

大阪府公文書館運営懇談会設置要綱

(設置)

第1条 大阪府公文書館の運営の円滑化を図るため、大阪府公文書館運営懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 懇談会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員の任期は、2年とする。

(座長)

第3条 懇談会に座長を置き、委員の互選によってこれを定める。

(会議)

第4条 懇談会の会議は、府政情報室長が招集する。

(会議の公開)

第5条 懇談会の会議を公開するかどうかの決定は、府政情報室長が懇談会の構成員の意見を聞いて行う。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、府民文化部府政情報室において行う。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、府政情報室長が定める。

公文書館事業の推移

来館者数

来館者内訳	平成24年度	平成25年度	平成26年度
公文書総合センター ①	17,557人	16,003人	13,733人
府政情報センター ②	7,258人	5,207人	3,695人
公文書館 ③	10,299人	10,796人	10,038人

※「公文書総合センター」に、「公文書館」と「府政情報センター」を設置 ①は、公文書総合センター入口設置の自動計測入場者数、②は府政情報センター窓口受付数、①-②=③を公文書館来館者数とし、府政学習会の庁舎見学者等も含む。

閲覧申出等件数

内訳	平成24年度	平成25年度	平成26年度
閲覧申出件数	282件	356件	221件
複写申出件数	233件	330件	186件
複写枚数	7,361枚	21,903枚	14,444枚

歴史的文書資料類の登録状況

分類	累計登録点数	平成24年度	平成25年度	平成26年度
近世・近代資料等	7,552点	0点	1点	5,187点
府公文書	15,467点	2,040点	105点	367点
行政刊行物・官報・公報他	135,763点	1,090点	1,292点	1,754点
合計	158,782点	3,130点	1,398点	7,308点

大阪府公文書館 利用案内

- ◆ **閲覧時間**
 - ・月曜日～金曜日 午前9時00分～午後5時15分
 - ※複写申請は閉館の30分前までにお願いします。
- ◆ **休館日**
 - ・土曜日、日曜日、祝日及びその振替休日
 - ・年末年始（12月29日～1月3日）

公文書館は、主に府が作成・入手した公文書や資料類のうち歴史的・文化的な価値があるものを保存し、皆さんにご利用いただく施設です。

